

第1回

授業づくり講座 教材研究会

市立安芸中学校

3年 「多項式」 浦田 泰良 教諭

授業の腕を磨く 授業づくり講座が いよいよ始まりました。

4月18日(水)市立安芸中学校で、授業づくり講座、本年度最初の「教材研究会」が開かれました。今回は、安芸中学校の数学科と東部地区4校から8名の参加のもと研究会を行いました。前半は浦田教諭の「3年 多項式」の指導案を基に、模擬授業を行い、議論・共有し、新学習指導要領と重ねながら、教材解釈を深めることができました。また、後半は、学力向上総括専門官、齊藤一弥先生から「事前研修のあり方」「浦田実践から学ぶこと」について具体的な話を聞くことができました。

指導案提案



提案指導案は、3年「多項式」での「インド式計算」を取り上げ、その仕組みを文字を用いた式で説明する授業展開でした。新学習指導要領にも示されている「文字を用いた式で、数量及び数量の関係を捉え説明することができる」を本時の目標とし、研究会は進みました。

協議

模擬授業では、「この流れで生徒は具体的な数から文字に置き換えることができるのか?」「生徒の着眼点を考えると、別の数を設定した方が良いのではないか?」「文字式は出ても、そこから『仕組み』を解決できるように生徒は式を見ることができるのか?」等論点を絞った協議となりました。



代案提案



協議では、「生徒が仕組みを見抜けるようにするには、前時、または、単元を考えて、見る力を育てないといけない」「具体的な数をもっと工夫をして示す必要がある。例えば、小学校から生徒が積み重ねている「計算のきまり」を前半で見せる」等、参加者がそれぞれの代案を基に、更に深めていました。

これからの進むべき方向や

考え方を示していただきました!!

<齊藤一弥先生より>

□教材研究会の在り方について

- ・事前研修は、参加者が代案を共有し、各自が実践のイメージがもてる研究会にする。
- ・授業提案者は、明確な課題意識と教材に対する思い(有用性、効果)を具体的にもつ。
- ・生徒の見方・考え方を引き出す場面等を模擬授業で見せるとよい。
- ・模擬授業後は、実践と理論とのズレをグループ協議するとよい。

□浦田教諭の実践より

- ・教材をとことん追求する先に見えるものがある。
- ・資質・能力は内容の深い理解に支えられている。今までのような形式的理解ではなく、意味的理解へシフトチェンジする必要がある。
- ・生徒がやりたいことと、先生がやりたいことの差を詰め、文脈を共有する。
- ・ゴールから授業を描くという鉄則を考える。



参観者より

- 浦田先生の授業後、自分が考えていた改善点等の意見と齊藤先生がおっしゃった、2つの視点が全く違うものだったので、これからの授業をつくる、教材研究、授業研の視点を知ることができてよかったです。
- 模擬授業の行い方について見直す必要性を感じた。
- 能力ベースのカリキュラムをつくることの大切さを感じた。(教科書通りの並びでなく、付けたい力を考えて)
- 単元の文脈を大切に、生徒にとって学ぶ価値ある教材であるのかを考える必要がある。
- 授業づくりはゴールから描き、単元計画の見直しを行いたいと思った。
- 模擬授業を他の教科の先生や研究を共にしている先生同士で実践していきたい。
- 自分が描く展開と生徒とのズレを認識するようにしたい。